

○研究の成果と今後への課題

【成果】

- 町屋幼稚園と第七峡田小学校で合同の研究組織を編成したことにより、一層連携が強まった。例えば、年間を通して互いの保育・教育活動を繰り返し参観したり、交流活動を行ったりする中で幼児教育と小学校教育への相互理解が深まった。
- 「ななはけラボ」の設置・活用により、5歳児から2年生までの子供がさまざまな活動で安心して自己を発揮し、主体的に活動に取り組む姿が見られた。
- 「ななはけラボ 期案」の作成とその実践によって、5歳児から2年生までの育ちや学びのつながりに着目した保育・教育活動を行うことができた。

【課題】

- 第七峡田小学校は、町屋幼稚園以外の就学前施設から入学してくる児童が80%（令和2年度）を占めている。小学校入学直後の時期にそれぞれの子供たちの育ちをより多角的に捉えるための手だてが必要である。
- 幼稚園においては、5歳児に至るまでの3歳児・4歳児の子供の姿、小学校においては2年生以降に目指す子供の姿をより明確にしていく必要がある。具体的には、小学校では6年生までに目指す姿へ向けて、3～6年生でどのような活動ができるのかを考えるようにしていきたい。
- 幼稚園と小学校で同じ視点で子供の見取りを行うことが難しかった。一層明確な見取りの観点を示し、共有していく必要がある。

○町屋幼稚園と第七峡田小学校の幼小交流の取組



運動会の表現参観



町屋幼稚園 70 周年キャラクターの張り子作り



町屋幼稚園 70 周年
キャラクター
『まちっぴー』



2年生の手作りおもちゃを用いた遊び



幼小合同の園内・校内研究会

同じ敷地内にあるという特性を生かし、様々な取組を行うことができた。低学年だけでなく、高学年とも交流を行い、幼稚園と小学校のかけはしとすることができた。